

2022年3月期 第3四半期 決算説明会

2022年2月9日
富士フイルム ホールディングス株式会社

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

2022年3月期 第3四半期

- 1 | 決算ハイライト及びトピックス**
富士フイルムホールディングス株式会社 代表取締役社長・CEO **後藤禎一**
- 2 | 連結業績及び事業概況**
富士フイルムホールディングス株式会社 取締役・CFO **樋口昌之**
- 3 | 通期連結業績予想**
富士フイルムホールディングス株式会社 取締役・CFO **樋口昌之**

2022年3月期 第3四半期

1. 決算ハイライト及びトピックス

2022年3月期 第3四半期 決算ハイライト

FUJIFILM

2022年3月期 第3四半期連結業績(9ヶ月)

(単位: 億円)

	FY21 3Q累計	対FY20	対FY19
売上高	18,609	+18.3%	+7.7%
営業利益	過去最高 1,865	+54.8%	+23.0%
当社株主帰属四半期純利益	過去最高 1,571	+24.2%	+30.2%

- ▶ 新型コロナ影響からの順調な回復に加えて、ヘルスケア、電子材料及びイメージングでの販売好調により **大幅な増収・増益を達成**。
- ▶ 全セグメント増収により、**過去最高益となる「営業利益」及び「当社株主帰属四半期純利益」を達成**。

2022年3月期 通期連結業績予想

(単位: 億円)

	前回予想 (2021/11/4公表値)	今回予想 (2022/2/9公表値)	対前回予想	セグメント内訳
売上高	25,100	25,100	-	ビジネスソリューション▲100、イメージング+100
営業利益	2,200	過去最高 2,250	+50	ビジネスソリューション▲30、イメージング+80
当社株主帰属当期純利益	1,750	過去最高 1,850	+100	

- ▶ 第3四半期業績を反映し、**「営業利益」及び「当社株主帰属当期純利益」を上方修正**。
- ▶ **過去最高益となる「営業利益」及び「当社株主帰属当期純利益」を目指す**。

4

売上高は1兆8,609億円、営業利益は過去最高益の1,865億円となりました。

昨年度の新型コロナウイルス感染症の流行拡大影響からの順調な回復に加えて、特にヘルスケア、電子材料、及びイメージングでの販売好調により、対前年で大幅な増収・増益を達成しました。コロナ禍前の2019年度比較でも増収・増益を達成しており、各事業がそれぞれの状況の変化に応じて、適切な対応をとることで、業績を伸ばすことに成功しました。

当社株主帰属四半期純利益も、全セグメント増収による過去最高の営業利益に加え、投資有価証券評価益など営業外項目での収益も寄与し、上期に続き9ヶ月累計も過去最高益の1,571億円となりました。

通期の連結業績予想について、第3四半期業績を反映し、前回予想から、営業利益は50億円増の2,250億円、当社株主帰属当期純利益は100億円増の1,850億円に、いずれも過去最高益の業績に上方修正します。

詳細については、後ほど樋口から説明します。

バイオCDMO事業

・ 米国バイオベンチャーAtara Biotherapeutics社の細胞治療薬製造拠点を買収

最先端治療分野である細胞治療薬の開発・製造受託ビジネスに本格参入

今回の買収により実現する主なポイント

- (1) 細胞治療分野における一貫した受託サービスを提供
- (2) 幅広い細胞ニーズに対応した細胞治療薬の受託が可能
- (3) 最先端治療薬の受託体制を更に強化

ライフサイエンス事業

・ 欧州で培地の新工場を稼働

日米欧3拠点のグローバル生産体制を確立し、顧客の創薬・医薬品製造をより強力にサポート

・ 培地のカスタマイズサービス拠点「Innovation & Collaboration Center」を中国に新設

現地ニーズに合わせてカスタマイズした培地で顧客の創薬・医薬品製造を強力にサポートし、中国での培地ビジネスを拡大

ライフサイエンス領域のコーポレートベンチャーキャピタル「LS-CVC」始動

最先端技術などを有する世界のバイオベンチャーを対象に出資枠を新たに設定

出資先との戦略的提携を通じて、ライフサイエンス事業の更なる強化や新規事業の創出を図る

自社での事業開発に戦略的なLS-CVCを加えて、事業の成長スピードを加速させる

5

次に、第3四半期のトピックスをお話します。

まず、バイオCDMO事業での新規買収についてです。

1月27日に発表しましたが、米国バイオベンチャーAtara Biotherapeuticsのカリフォルニアにある細胞治療薬製造拠点を約1億USドルで買収します。

今回の買収により実現するポイントは大きく3つあります。

1つ目は、細胞治療薬分野において、プロセス開発から治験薬製造・商業生産まで一貫した受託サービスを提供します。

2つ目は、既に受託ビジネスを展開しているiPS細胞に加えて、それ以外の自家・他家細胞など、顧客の幅広い細胞ニーズに対応した細胞治療薬の開発・製造を受託します。

そして3つ目は、米国のテキサス、ボストン、英国の遺伝子治療薬CDMO拠点に、今回獲得するカリフォルニアの拠点を新たに追加、最先端治療薬の受託体制を更に強化します。

本買収により、細胞治療薬の受託ビジネスに本格参入し、バイオ医薬品の開発・製造受託事業をさらに拡大していきます。

次に、ライフサイエンス事業については、

培地の最新鋭工場をオランダで12月から本格的に稼働させました。新工場の稼働を通じて、生産能力を増強するとともに、日米欧3拠点のグローバル生産体制を確立し、顧客の創薬・医薬品製造をより強力にサポートしていきます。

また、中国での培地ビジネスを拡大するため、蘇州に中国市場の顧客ニーズを素早く捉え、培地をカスタマイズするサービス拠点「Innovation & Collaboration Center」を新設しました。4月より本格的に営業活動を開始します。

当社はグループの技術・ノウハウを結集して高品質・高機能の培地を開発し、幅広く提供することで、グローバル展開を加速させていきます。

そして、自社での事業開発を支えるために、ライフサイエンス領域のコーポレートベンチャーキャピタル「LS-CVC」を始動させます。

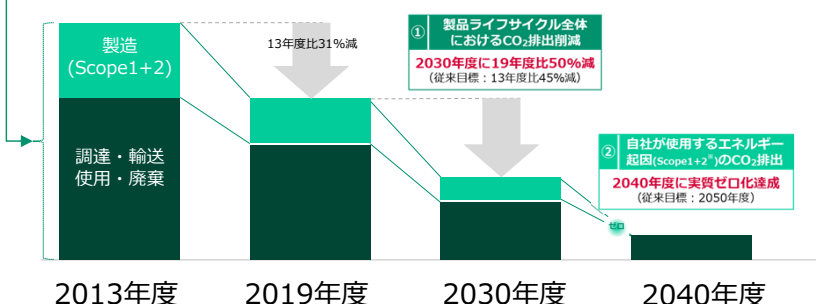
LS-CVCでは、最先端技術などを有するバイオベンチャーを対象に、5年間で70億円の出資枠を設け、積極的に出資を行っていきます。当社は、自社での事業開発に加えて、LS-CVCを通じたベンチャーとの連携も図り、ライフサイエンス領域の成長スピードを加速させていきます。

新たな環境戦略

“Green Value Climate Strategy” の下、脱炭素化を加速する

1. 脱炭素目標の引き上げ

①	製品ライフサイクル全体 におけるCO₂排出削減	②	自社が使用するエネルギー 起因(Scope1+2[※])のCO₂排出
	2030年度に19年度比50%減 (従来目標：13年度比45%減)		2040年度に実質ゼロ化達成 (従来目標：2050年度)



※ Scope1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)、Scope2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

2. 新たな環境戦略

“Green Value Climate Strategy”

- (1) 環境負荷の少ない生産活動
“Green Value Manufacturing”の推進
- (2) 優れた環境性能を持つ製品・サービス
“Green Value Products”の創出・普及
- (3) 新環境戦略に沿った事業別目標の設定
- (4) インターナルカーボンプライシング(社内炭素価格)の導入

次に環境戦略についてです。

当社は、脱炭素社会の実現に向け、パリ協定で定められている「1.5℃目標」に整合した、新たなCO₂排出削減目標を設定しました。新たな目標では、原材料調達から製造、輸送、使用、廃棄に至るまでの自社製品のライフサイクル全体において、2030年度までにCO₂排出量を2019年度比で50%削減する目標に上方修正しました。さらに、自社が使用するエネルギー起因のCO₂排出を実質的にゼロとする時期を、従来の2050年度から10年早め、2040年度に達成させます。

本目標の達成に向けて、富士フイルムグループ環境戦略「Green Value Climate Strategy」を新たに策定しました。環境負荷の少ない生産活動「Green Value Manufacturing」、および、優れた環境性能を持つ製品・サービス「Green Value Products」の創出・普及を推進します。また、新環境戦略に沿った事業別目標を設定するとともに、本格的にインターナルカーボンプライシングを投資判断に導入することで、新目標を達成していきます。

私からの説明は以上です。

2022年3月期 第3四半期

2. 連結業績及び事業概況

2022年3月期 第3四半期 業績(2021年4月~12月)

FUJIFILM

(単位：億円)

	9ヶ月				
	2021年3月期	2022年3月期	対前年度	為替影響	為替影響 除く
売上高	15,734 100.0%	18,609 100.0%	2,875 +18.3%	661	2,214 +14.1%
営業利益	1,205 7.7%	1,865 10.0%	660 +54.8%	172	488 +40.5%
税金等調整前 四半期純利益	1,748 11.1%	2,072 11.1%	324 +18.5%	233	91 +5.2%
当社株主帰属 四半期純利益	1,265 8.0%	1,571 8.4%	306 +24.2%	162	144 +11.4%
1株当たり当社株主帰属 四半期純利益	316.42円	392.40円	75.98円	<その他増減要因（対前年度）> 営業利益における 原材料価格影響：▲138億円	
為替 : 米ドル	106円	111円	5円安		
: ユーロ	123円	131円	8円安		

8

2022年3月期 第3四半期の業績は、
 売上高は、全セグメントで増収を達成し、前年比18.3%増の1兆8,609億円、
 営業利益は、前年比54.8%増で過去最高益となる、1,865億円となりました。
 当社株主帰属四半期純利益は、過去最高の営業利益に加え、投資有価証券評価益など営業外項目での収益も寄与し、上期に続き9ヶ月累計も過去最高益の1,571億円となりました。

セグメント別 連結売上高 | 営業利益

(単位：億円)

売上高	9ヶ月		対前年度	為替影響除く
	2021年 3月期	2022年 3月期		
ヘルスケア	3,881	5,767	1,886 (+48.6%)	1,682 (+43.3%)
マテリアルズ	4,173	4,649	476 (+11.4%)	311 (+7.5%)
ビジネスイノベーション	5,494	5,591	97 (+1.8%)	-57 (-1.0%)
イメージング	2,186	2,602	416 (+19.0%)	278 (+12.7%)
合計	15,734	18,609	2,875 (+18.3%)	2,214 (+14.1%)

*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

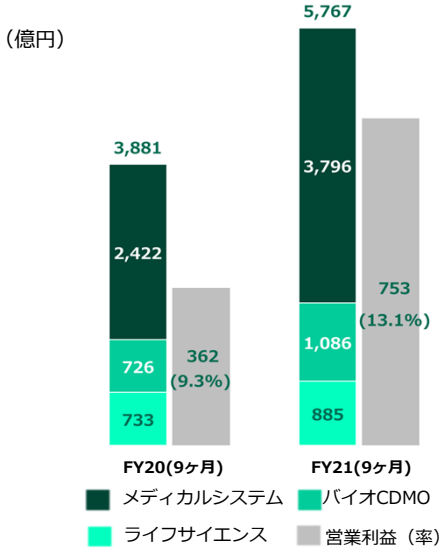
営業利益	9ヶ月		対前年度	為替影響除く
	2021年 3月期	2022年 3月期		
ヘルスケア	362	753	391 (2.1倍)	338 (+93.3%)
マテリアルズ	459	579	120 (+25.9%)	79 (+17.0%)
ビジネスイノベーション	467	422	-45 (-9.6%)	-69 (-14.7%)
イメージング	141	347	206 (2.5倍)	149 (2.1倍)
全社/連結調整	-224	-236	-12 -	-9 -
合計	1,205	1,865	660 (+54.8%)	488 (+40.5%)

続いて、セグメント別の業績については、売上・利益はご覧の通りです。

セグメント別概況：ヘルスケア

FUJIFILM

全サブセグメントでのオーガニックグロースに加えて、メディカルシステム事業における富士フィルムヘルスケアの連結子会社化も寄与し、売上高対前年+48.6%、営業利益対前年2.1倍となる大幅な増収・増益を達成。



■ メディカルシステム：売上高3,796億円（対前年+56.7%）

- 富士フィルムヘルスケアの連結子会社化に加えて、肺炎診断に有用な超軽量移動型デジタルX線撮影装置や超音波画像診断装置の需要継続、内視鏡の好調な販売などにより、売上が大幅に増加。
- 富士フィルムと富士フィルムヘルスケアの国内機器製造子会社、及び、米国販売子会社をそれぞれ統合させるなど、PMIが順調。

■ バイオCDMO：売上高1,086億円（対前年+49.7%）

- バイオ医薬品のプロセス開発受託及び製造受託が好調に推移したことに加えて、米国拠点での新型コロナワクチン候補の原薬製造が寄与するなど、売上が大幅に増加。

■ ライフサイエンス※：売上高885億円（対前年+20.7%）

- ライフサイエンス事業は、バイオ医薬品製造用途の培地販売が好調に推移し、売上が大幅に増加。
- コンシューマーヘルスケア事業は、「メタバリアEX」などのサプリメントの販売が好調だったことに加え、化粧品も新製品の販売が堅調に推移し、売上が増加。

※ライフサイエンス：ライフサイエンス事業（細胞・培地・試薬）、医薬品事業、コンシューマーヘルスケア事業（化粧品・サプリメント）から構成される開示セグメント

10

ヘルスケアの業績の概要を説明します。

全サブセグメントでのオーガニックグロースに加えて、メディカルシステム事業における富士フィルムヘルスケアの連結子会社化も寄与し、売上高は、前年比48.6%増の5,767億円、営業利益は、前年比2.1倍の753億円となりました。

メディカルシステムは、富士フィルムヘルスケアの連結子会社化に加えて、肺炎診断に有用な超軽量移動型デジタルX線撮影装置や超音波画像診断装置の需要継続、内視鏡の好調な販売などにより、売上が大幅に増加しました。また、富士フィルムと富士フィルムヘルスケアの国内機器製造子会社、及び、米国販売子会社をそれぞれ統合させるなど、PMIを順調に進めています。

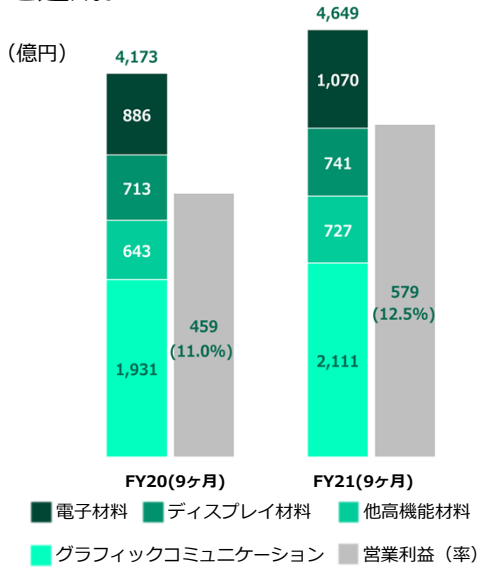
バイオCDMOは、バイオ医薬品のプロセス開発受託及び製造受託が好調に推移したことに加えて、米国拠点での新型コロナワクチン候補の原薬製造が寄与するなど、売上が大幅に増加しました。

ライフサイエンスは、米国子会社「FUJIFILM Irvine Scientific」が展開するバイオ医薬品製造用途の培地の販売などが好調に推移し、売上が増加しました。

コンシューマーヘルスケア事業では、「メタバリアEX」などのサプリメントの販売が好調だったことに加え、化粧品も新製品の販売が堅調に推移し、売上が増加しました。

セグメント別概況：マテリアルズ

新型コロナウイルス影響からの着実な回復に加えて、旺盛な半導体需要を背景とした電子材料事業の成長が牽引し、売上高対前年+11.4%、営業利益対前年+25.9%となる大幅な増収・増益を達成。



- 電子材料：売上高1,070億円（対前年+20.8%）**
 - 半導体需要の増加に伴い、フォトレジストやCMPスラリー、ポストCMPクリーナー、ポリイミドなど幅広い製品群で販売が好調に推移し、売上が大幅に増加。
- ディスプレイ材料：売上高741億円（対前年+4.0%）**
 - 新型コロナウイルス流行下でのモニター、タブレット、及びTV需要の増加や、スマートフォンの堅調な需要を受けて、各種の高機能フィルム製品の販売が好調に推移し、売上が増加。
- 他高機能材料※：売上高727億円（対前年+13.2%）**
 - 記録メディア事業では、新型コロナウイルス流行下で落ち込んでいたデータアーカイブ目的のテープ需要が回復傾向にあり、売上が増加。
- グラフィックコミュニケーション：売上高2,111億円（対前年+9.3%）**
 - グラフィックコミュニケーション事業では、刷版材料の新型コロナウイルス影響からの回復に加え、デジタル印刷分野では、2021年11月に「Jet Press 750S High Speed Model」を発売するなど、販売が好調に推移し、売上が増加。
 - インクジェット事業では、産業用インクジェットヘッドの販売が欧州・中国での需要増により好調に推移し、売上が増加。

※他高機能材料：産業機材事業、ファインケミカル事業、記録メディア事業から構成される開示セグメント

マテリアルズの業績の概要について説明します。

新型コロナウイルス影響からの着実な回復に加えて、旺盛な半導体需要を背景とした電子材料事業の成長が牽引し、売上高は、前年比11.4%増の4,649億円、営業利益は、前年比25.9%増の579億円となりました。

電子材料は、半導体需要の増加に伴い、フォトレジストやCMPスラリー、ポストCMPクリーナー、ポリイミドなど幅広い製品群で販売が好調に推移し、売上が増加しました。

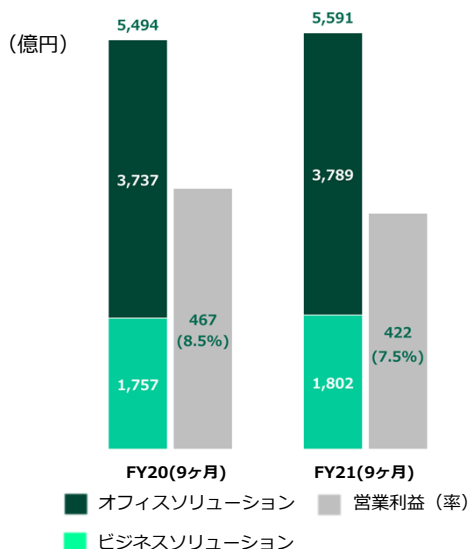
ディスプレイ材料は、新型コロナウイルス流行下でのモニター、タブレット及びテレビ需要の増加や、スマートフォンの堅調な需要を受けて、各種高機能フィルム製品の販売が好調に推移し、全体の売上が増加しました。

グラフィックコミュニケーションは、刷版材料の新型コロナウイルス影響からの回復に加え、デジタル印刷分野では、昨年11月に「Jet Press 750S High Speed Model」を発売するなど、販売が好調に推移し、売上が増加しました。

インクジェット事業では、産業用インクジェットヘッドの販売が欧州・中国の建材印刷市場での需要増により好調に推移しました。インクの販売は、新型コロナウイルス影響による需要の減少から回復し、ホーム・オフィス市場向け染料を中心に販売を伸ばし、売上が増加しました。

セグメント別概況：ビジネスイノベーション FUJIFILM

- ・ オフィスソリューション、ビジネスソリューションともに増収となり、売上高対前年+1.8%。
- ・ 半導体等の部品コスト増などにより、営業利益対前年▲9.6%。
- ・ 「FUJIFILM」ブランドのオフィス向け製品を新市場で販売開始。



- **オフィスソリューション：売上高3,789億円 (対前年+1.4%)**
 - ・ アジアパシフィック地域でのロックダウンや半導体等の部品供給の逼迫を背景とした、機器の供給・設置遅延による影響を受けたが、ノンハードの売上回復や為替影響など、売上は対前年増。
 - ・ 富士フィルムの海外拠点や有望な代理店を活用した販路の拡大に向けて、第3四半期より新たな市場にてオフィス向け製品の販売を開始。今後も欧州や中東、中南米などの新市場を開拓するとともに、新規のOEM供給も含め、グローバル展開を拡大する。
- **ビジネスソリューション：売上高1,802億円 (対前年+2.6%)**
 - ・ 国内での自治体向けビジネスの獲得や、海外を中心としたBPO※の販売増などにより、売上が増加。
 - ・ 2022年1月1日に、HOYAデジタルソリューションズ株式会社の買収を完了し、「富士フィルムデジタルソリューションズ株式会社」として新たに事業活動を開始。新会社が提供する基幹システムの販売及び導入支援を含め、今後もお客様のDXに資するソリューション・サービスメニューを順次提供し、ビジネスソリューション事業の更なる成長を加速させる。

※ビジネスプロセスアウトソーシング

12

ビジネスイノベーションの業績の概要について説明します。

売上高は、オフィスソリューション、ビジネスソリューションともに増収となり、前年比1.8%増の5,591億円となりました。

営業利益は、半導体等の部品コスト増などの影響により、前年比9.6%減の422億円となりました。

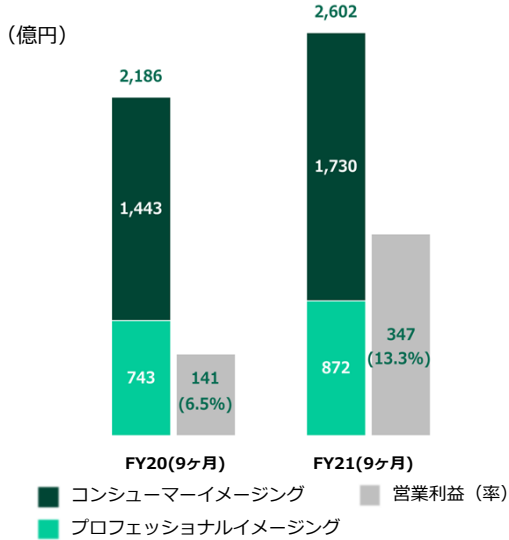
オフィスソリューション事業では、アジアパシフィック地域でのロックダウンや半導体等の部品供給の逼迫を背景とした、機器の供給・設置遅延による影響を受けましたが、ノンハードの売上回復や為替影響などにより、売上は対前年増となりました。

富士フィルムの海外拠点や有望な代理店を活用した販路の拡大に向けて、第3四半期より新たな市場にてオフィス向け製品の販売を開始しました。今後も欧州や中東、中南米などの新市場を開拓するとともに、新規のOEM供給も含め、グローバル展開を拡大していきます。

ビジネスソリューション事業は、国内で自治体向けビジネスが増加したことや、海外を中心にBPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）が好調に推移し、前年を上回る売上となりました。また、本年1月1日に、HOYAデジタルソリューションズ株式会社の買収を完了し、「富士フィルムデジタルソリューションズ株式会社」として新たに事業活動を開始しました。新会社が提供する基幹システムの販売及び導入支援を含め、今後もお客様のDXに資するソリューション・サービスメニューを順次提供し、ビジネスソリューション事業の更なる成長を加速させていきます。

セグメント別概況：イメージング

カラー印画紙や放送・シネマ用レンズ等の新型コロナ影響からの着実な回復に加えて、インスタントフォトシステムやデジタルカメラでの新製品投入により、販売が好調に推移し、売上高対前年+19.0%、営業利益対前年2.5倍となる大幅な増収・増益を達成。



■ コンシューマーイメージング：売上高1,730億円（対前年+19.8%）

- 新型コロナ影響からの回復に加えて、インスタントフォトシステムや、米国リテラー向けのドライプリント機器及び材料の販売が好調に推移し、売上が大幅に増加。
- 2021年4月にミニフォーマットフィルムに対応した新エントリーモデル「instax mini 40」、同年10月にワイドフォーマットサイズのスマートフォン用プリンター「instax Link WIDE」、更に同年12月に最上位機種「instax mini Evo」と新製品を発売。いずれも市場から高く評価され、販売が好調に推移。

■ プロフェッショナルイメージング：売上高872億円（対前年+17.4%）

- 1億画素で最高画質を実現したラージフォーマットミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX100S」が市場から高い評価を受け、販売好調が継続。加えて2021年9月に5千万画素の兄弟機「FUJIFILM GFX50S II」を発売し、「GFX」ユーザー層を拡大。
- 2021年11月には高画質と小型軽量を両立させた「Xシリーズ」最新モデル、ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM X-T30 II」を発売。
- 新型コロナ影響により需要が減少していた放送・シネマ用レンズの販売が回復基調にあり、売上が増加。遠望監視やマシンビジョンなど監視計測領域の販売も好調に推移。

イメージングの業績の概要について説明します。

カラー印画紙や放送・シネマ用レンズ等の新型コロナ影響からの着実な回復に加えて、インスタントフォトシステムやデジタルカメラでの新製品投入により、販売が好調に推移し、売上高は、前年比19.0%増の2,602億円、営業利益は、前年比2.5倍の347億円となりました。

コンシューマーイメージング分野では、インスタントフォトシステムや、米国リテラー向けのドライプリント機器及び材料の販売が好調に推移し、売上が増加しました。インスタントフォトシステムは、昨年4月に、ミニフォーマットフィルムに対応した新エントリーモデル「instax mini 40」、10月にワイドフォーマットサイズのスマートフォン用プリンター「instax Link WIDE」、更に同年12月に最上位機種「instax mini Evo」と、新製品を発売しました。いずれも市場から高く評価され、販売が好調に推移しました。

プロフェッショナルイメージング分野では、1億画素で最高画質を実現したラージフォーマットミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX100S」や、昨年9月に発売した5千万画素の兄弟機「FUJIFILM GFX50S II」、更に、11月に発売した「Xシリーズ」最新モデルのミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM X-T30 II」がいずれも好評で、デジタルカメラの販売好調が継続しました。また、新型コロナ影響により需要が減少していた放送・シネマ用レンズの販売が回復基調にあり、遠望監視やマシンビジョンなど監視計測領域でのレンズ販売も堅調で、前年を大きく上回る売上となりました。

連結貸借対照表

FUJIFILM

(単位：億円)

	20年 3月期末	21年 3月期末	22年3月期 12月末	対21年 3月期末		20年 3月期末	21年 3月期末	22年3月期 12月末	対21年 3月期末
現金及び現金同等物	3,961	3,948	4,250	302	長短社債及び借入金	6,242	5,030	4,727	-303
受取債権	5,584	6,057	5,795	-262	支払債務	2,223	2,399	2,583	184
棚卸資産	3,809	4,177	4,869	692	その他流動・固定負債	4,814	5,841	5,933	92
その他流動資産	1,538	892	1,334	442	負債計	13,279	13,270	13,243	-27
流動資産計	14,892	15,074	16,248	1,174	株主資本計	19,533	22,046	23,824	1,778
有形固定資産	6,005	6,353	6,744	391	非支配持分	405	176	193	17
営業権	6,872	8,042	7,884	-158	純資産計	19,938	22,222	24,017	1,795
その他固定資産	5,448	6,023	6,384	361	負債・純資産合計	33,217	35,492	37,260	1,768
固定資産計	18,325	20,418	21,012	594					
資産合計	33,217	35,492	37,260	1,768					

(単位：円)

	20年 3月期末	21年 3月期末	22年3月期 12月末	対21年 3月期末
期末日 為替レート				
米ドル	109	111	115	4円安
ユーロ	120	130	131	1円安

14

バランスシートについて説明します。

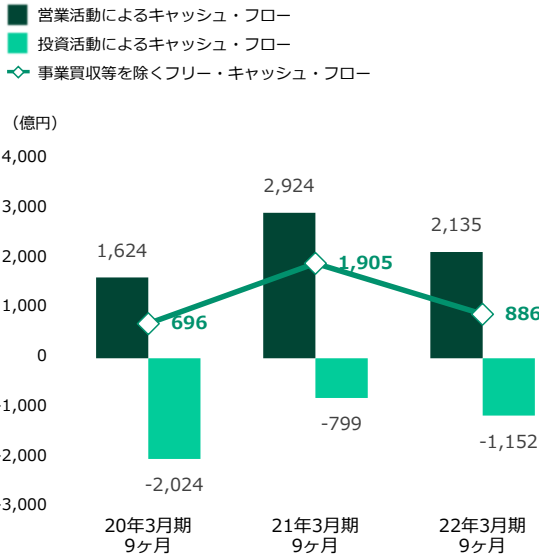
2022年3月期12月末時点の資産合計は、現金及び現金同等物の増加などにより、2021年3月期末時点と比べ、1,768億円増の3兆7,260億円となりました。

負債は、27億円減の1兆3,243億円となりました。
株主資本は1,778億円増の2兆3,824億円となりました。

連結キャッシュ・フロー

FUJIFILM

(単位：億円)



	20年3月期 9ヶ月	21年3月期 9ヶ月	22年3月期 9ヶ月
四半期純利益	1,335	1,278	1,604
減価償却費	918	909	977
受取債権の増(-)減(+)	435	372	354
棚卸資産の増(-)減(+)	-382	-299	-661
営業債務の増(+)減(-)	65	-104	79
その他	-747	768	-218
営業活動によるCF	1,624	2,924	2,135
設備投資	-648	-729	-909
ソフトウェアの購入	-152	-154	-270
投資有価証券の売却・購入等	-37	220	97
事業買収	-1,059	0	0
その他	-128	-136	-70
投資活動によるCF	-2,024	-799	-1,152
フリー・キャッシュ・フロー(FCF)	-400	2,125	983
事業買収等を除くFCF※	696	1,905	886

※フリー・キャッシュ・フローから、事業買収、及び投資有価証券等の売却・購入を控除しています。

15

キャッシュ・フローについて説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、受取債権の減少などにより、2,135億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資などにより、1,152億円の支出となりました。この結果、事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フローは、886億円の収入となりました。

新中期経営計画「VISION2023」で発表しました通り、売上高・営業利益の成長に加え、ROICとCCCの向上を図ることで、キャッシュ創出力を強化し、

2021年度から2023年度の3年間累計で1兆円の営業キャッシュ・フローを創出します。

特に、投下資本の有効活用の観点から経営の効率性を示すROICをより重視し、創出したキャッシュは、成長投資に優先的に配分していきます。

2022年3月期第3四半期決算の説明は以上です。

2022年3月期 第3四半期

3. 通期連結業績予想

2022年3月期 通期連結業績予想 (2022年2月9日時点)

FUJIFILM

(単位：億円)

	2021年3月期	2022年3月期 前回予想 (2021/11/4公表値)	2022年3月期 今回予想 (2022/2/9公表値)	対前年度	対前回予想
売上高	21,925 100%	25,100 100%	25,100 100%	3,175 +14.5%	- -
営業利益	1,655 7.5%	2,200 8.8%	過去 最高 2,250 9.0%	595 +36.0%	50 +2.3%
税金等調整前当期純利益	2,359 10.8%	2,400 9.6%	過去 最高 2,450 9.8%	91 +3.9%	50 +2.1%
当社株主帰属当期純利益	1,812 8.3%	1,750 7.0%	過去 最高 1,850 7.4%	38 +2.1%	100 +5.7%
1株当たり 当社株主帰属当期純利益	453.28円	436.65円	461.60円	+8.32円	+24.95円
ROE	8.7%	7.7%	8.1%	-0.6%	+0.4%
ROIC	4.3%	5.3%	5.6%	+1.3%	+0.3%
CCC	123日	120日	120日	-3日	-
為替 : 米ドル	106円	109円	112円	6円安	3円安
: ユーロ	124円	132円	130円	6円安	2円高
銀価格 (/kg)	74,000円	93,000円	89,000円	+15,000円	-4,000円

17

2022年3月期の業績予想は、冒頭でお伝えしました通り、第3四半期業績を反映し、利益を上方修正します。

営業利益、税金等調整前当期純利益、そして当社株主帰属当期純利益で過去最高益を目指します。

セグメント別業績予想 (2022年2月9日時点)

(単位：億円)

売上高	2022年3月期 前回予想 (2021/11/4公表値)	2022年3月期 今回予想 (2022/2/9公表値)	対前回予想
ヘルスケア	7,900	7,900	0
マテリアルズ	6,200	6,200	0
ビジネスイノベーション	7,800	7,700	-100
イメージング	3,200	3,300	100
合計	25,100	25,100	0

(単位：億円)

営業利益	2022年3月期 前回予想 (2021/11/4公表値)	2022年3月期 今回予想 (2022/2/9公表値)	対前回予想
ヘルスケア	1,000	1,000	0
マテリアルズ	630	630	0
ビジネスイノベーション	700	670	-30
イメージング	250	330	80
全社/連結調整	-380	-380	0
合計	2,200	2,250	50

18

セグメント別業績予想はご覧の通りです。

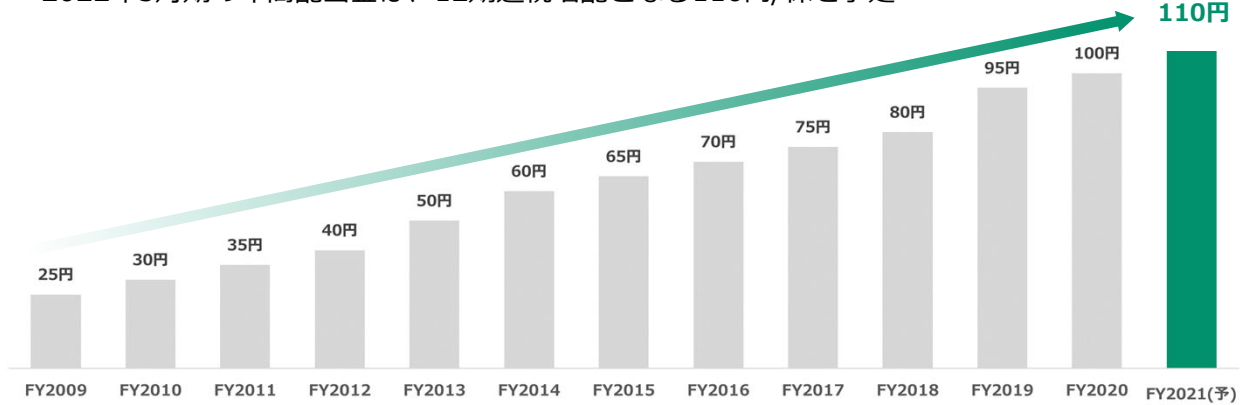
売上高は、全社合計は変更しておりませんが、インスタントフォトシステムやデジタルカメラが好調のイメージングを100億円上方修正し、半導体等部品の供給制約を受けているビジネスイノベーションを100億円下方修正します。

また、営業利益は、セグメントの内訳を見直し、全社合計では50億円上方修正します。

株主還元

配当金

▶ 2022年3月期の年間配当金は、12期連続増配となる110円/株を予定



自己株式取得

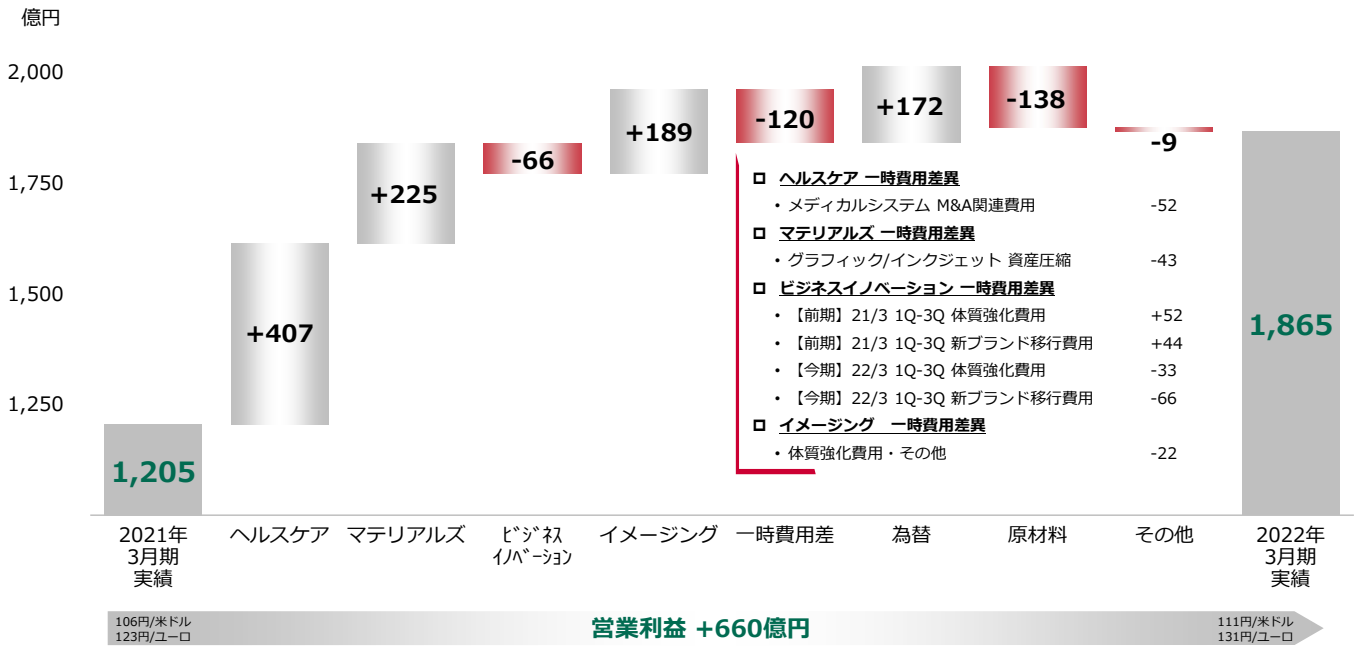
▶ キャッシュフローを勘案し、株価の推移に応じて機動的に実施

年間配当予想は、第2四半期決算発表時にお伝えしました通り、12期連続増配となる110円にします。

私からの説明は以上になります。

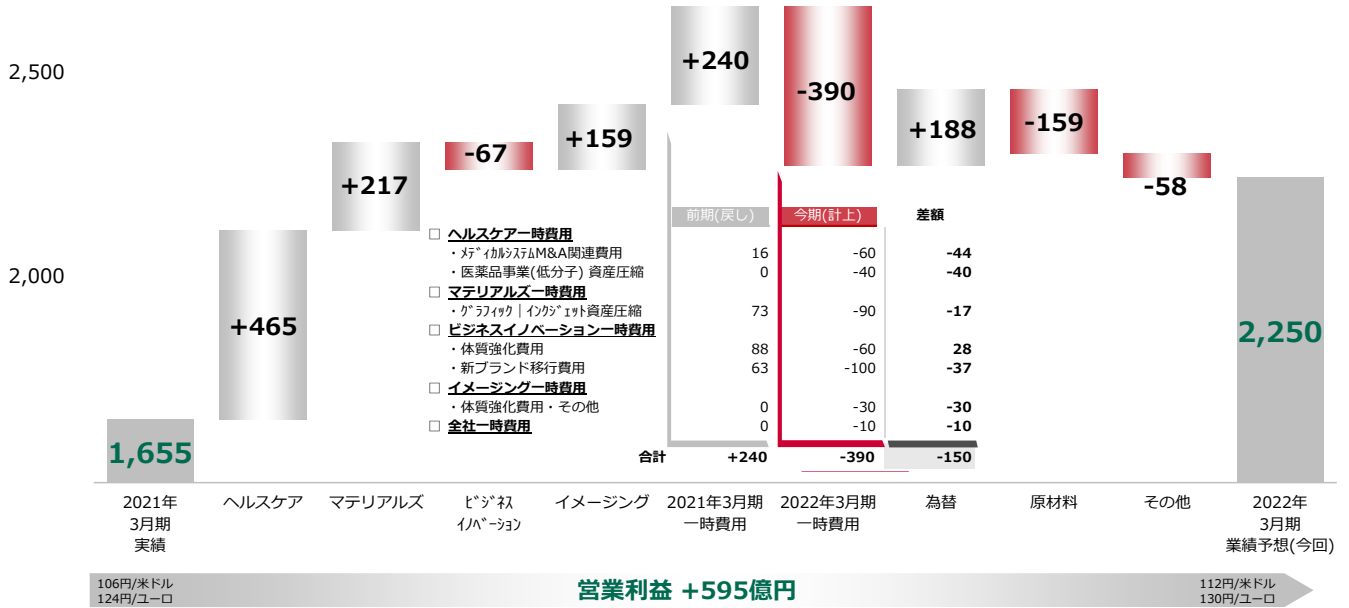
2022年3月期 第3四半期
参考資料

営業利益増減分析（9カ月累計実績 対前年）



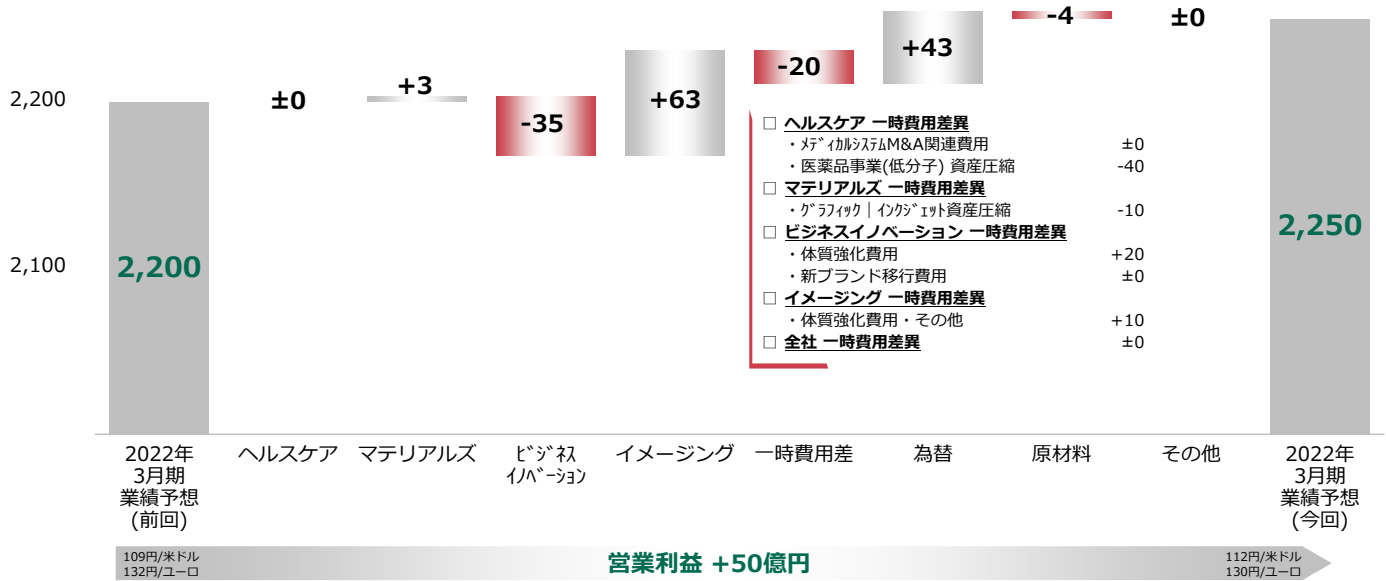
営業利益増減分析（通期業績予想 対前年）

億円



営業利益増減分析（通期業績予想 対修正前）

億円



3Q | 9ヶ月 業績

FUJIFILM

(単位：億円)

	3Q			9ヶ月				
	2021年3月期	2022年3月期	対前年度	2021年3月期	2022年3月期	対前年度	為替影響	為替影響 除く
売上高	5,760 100.0%	6,558 100.0%	798 +13.8%	15,734 100.0%	18,609 100.0%	2,875 +18.3%	661	2,214 +14.1%
営業利益	640 11.1%	786 12.0%	146 +22.8%	1,205 7.7%	1,865 10.0%	660 +54.8%	172	488 +40.5%
税金等調整前 四半期純利益	752 13.1%	773 11.8%	21 +2.8%	1,748 11.1%	2,072 11.1%	324 +18.5%	233	91 +5.2%
当社株主帰属 四半期純利益	589 10.2%	608 9.3%	19 +3.3%	1,265 8.0%	1,571 8.4%	306 +24.2%	162	144 +11.4%
為替 : 米ドル	105円	114円	9円安	106円	111円	5円安		
: ユーロ	125円	130円	5円安	123円	131円	8円安		

<その他増減要因 (3Q/9ヶ月累計 対前年度)>

営業利益における原材料価格影響：▲49億円 / ▲138億円

3Q | 9ヶ月 業績

FUJIFILM

(単位：億円)

売上高	3Q			9ヶ月		
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度
ヘルスケア	1,400	2,011	611 (+43.6%)	3,881	5,767	1,886 (+48.6%)
マテリアルズ	1,461	1,585	124 (+8.5%)	4,173	4,649	476 (+11.4%)
ビジネスイノベーション	1,852	1,843	-9 (-0.4%)	5,494	5,591	97 (+1.8%)
イメージング	1,047	1,119	72 (+6.8%)	2,186	2,602	416 (+19.0%)
合計	5,760	6,558	798 (+13.8%)	15,734	18,609	2,875 (+18.3%)

*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q			9ヶ月		
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度
ヘルスケア	176 [12.6%]	283 [14.1%]	107 (+60.9%)	362 [9.3%]	753 [13.1%]	391 (2.1倍)
マテリアルズ	192 [13.2%]	187 [11.8%]	-5 (-2.9%)	459 [11.0%]	579 [12.5%]	120 (+25.9%)
ビジネスイノベーション	179 [9.7%]	167 [9.0%]	-12 (-6.9%)	467 [8.5%]	422 [7.5%]	-45 (-9.6%)
イメージング	162 [15.5%]	223 [19.9%]	61 (+37.0%)	141 [6.5%]	347 [13.3%]	206 (2.5倍)
全社/連結調整	-69	-74	-5	-224	-236	-12
合計	640 [11.1%]	786 [12.0%]	146 (+22.8%)	1,205 [7.7%]	1,865 [10.0%]	660 (+54.8%)

3Q | 9ヶ月 業績 : ヘルスケア

FUJIFILM

(単位 : 億円)

売上高	3Q					9ヶ月				
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く
メディカルシステム	881	1,348	467 (+52.8%)	412 (+46.4%)	2,422	3,796	1,374 (+56.7%)	1,245 (+51.4%)		
バイオCDMO	255	374	119 (+47.4%)	88 (+35.4%)	726	1,086	360 (+49.7%)	303 (+41.9%)		
ライフサイエンス	264	289	25 (+9.2%)	15 (+5.6%)	733	885	152 (+20.7%)	134 (+18.2%)		
合計	1,400	2,011	611 (+43.6%)	515 (+36.7%)	3,881	5,767	1,886 (+48.6%)	1,682 (+43.3%)		

*セグメント間取引消去後

(単位 : 億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q					9ヶ月				
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く
ヘルスケア	176 [12.6%]	283 [14.1%]	107 (+60.9%)	77 (+43.5%)	362 [9.3%]	753 [13.1%]	391 (2.1倍)	338 (+93.3%)		

3Q | 9ヶ月 業績 : マテリアルズ

FUJIFILM

(単位:億円)

売上高	3Q					9ヶ月						
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		
電子材料	305	377	72	(+23.6%)	47	(+15.1%)	886	1,070	184	(+20.8%)	131	(+14.8%)
ディスプレイ材料	271	237	-34	(-12.4%)	-35	(-12.7%)	713	741	28	(+4.0%)	25	(+3.6%)
他高機能材料	219	245	26	(+11.7%)	14	(+6.2%)	643	727	84	(+13.2%)	61	(+9.4%)
グラフィックコミュニケーション	666	726	60	(+9.0%)	26	(+3.7%)	1,931	2,111	180	(+9.3%)	94	(+4.8%)
合計	1,461	1,585	124	(+8.5%)	52	(+3.4%)	4,173	4,649	476	(+11.4%)	311	(+7.5%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q					9ヶ月						
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		
マテリアルズ	192 [13.2%]	187 [11.8%]	-5	(-2.9%)	-25	(-13.4%)	459 [11.0%]	579 [12.5%]	120	(+25.9%)	79	(+17.0%)

3Q | 9ヶ月 業績 : ビジネスイノベーション

FUJIFILM

(単位: 億円)

売上高	3Q						9ヶ月					
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			対前年度	対前年度	為替影響除く	為替影響除く			対前年度	対前年度	為替影響除く	為替影響除く
オフィスソリューション	1,257	1,238	-19	(-1.4%)	-57	(-4.3%)	3,737	3,789	52	(+1.4%)	-60	(-1.6%)
ビジネスソリューション	595	605	10	(+1.6%)	-4	(-0.8%)	1,757	1,802	45	(+2.6%)	3	(+0.1%)
合計	1,852	1,843	-9	(-0.4%)	-61	(-3.2%)	5,494	5,591	97	(+1.8%)	-57	(-1.0%)

*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q						9ヶ月					
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			対前年度	対前年度	為替影響除く	為替影響除く			対前年度	対前年度	為替影響除く	為替影響除く
ビジネスイノベーション	179 [9.7%]	167 [9.0%]	-12	(-6.9%)	-12	(-6.8%)	467 [8.5%]	422 [7.5%]	-45	(-9.6%)	-69	(-14.7%)

3Q | 9ヶ月 業績 : イメージング

FUJIFILM

(単位：億円)

売上高	3Q						9ヶ月					
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	
コンシューマーイメージング	760	790	30	(+3.7%)	-19	(-2.6%)	1,443	1,730	287	(+19.8%)	194	(+13.4%)
プロフェッショナルイメージング	287	329	42	(+14.9%)	24	(+8.5%)	743	872	129	(+17.4%)	84	(+11.3%)
合計	1,047	1,119	72	(+6.8%)	5	(+0.5%)	2,186	2,602	416	(+19.0%)	278	(+12.7%)

*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q						9ヶ月					
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	
イメージング	162 [15.5%]	223 [19.9%]	61	(+37.0%)	38	(+23.3%)	141 [6.5%]	347 [13.3%]	206	(2.5倍)	149	(2.1倍)

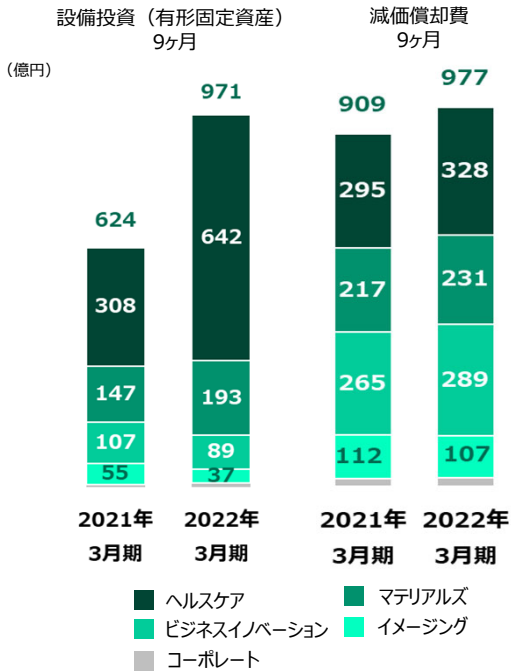
国内・海外別連結売上高

FUJIFILM

(単位：億円)

	2021年3月期 9ヶ月		2022年3月期 9ヶ月		対前年度	
	構成比(%)		構成比(%)			
日本	41.7%	6,567	38.2%	7,104	537	(+8.2%)
米州	18.9%	2,980	21.2%	3,949	969	(+32.5%)
欧州	12.3%	1,923	13.3%	2,482	559	(+29.1%)
内、中国	14.0%	2,200	13.9%	2,584	384	(+17.5%)
アジア他	27.1%	4,264	27.3%	5,074	810	(+19.0%)
海外	58.3%	9,167	61.8%	11,505	2,338	(+25.5%)
合計	100.0%	15,734	100.0%	18,609	2,875	(+18.3%)

設備投資 | 減価償却費

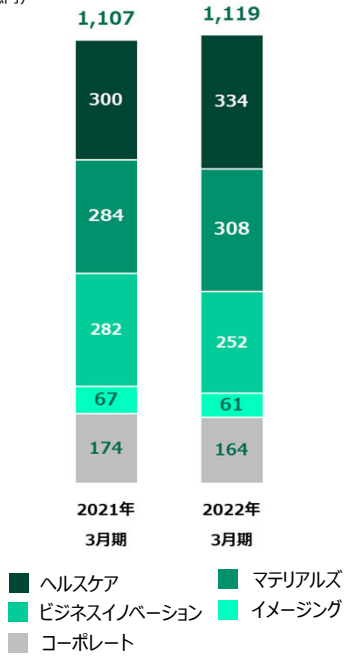


(単位: 億円)

年度	3Q		9ヶ月		通期	
	2021年 3月期	2022年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期 (予想)
ヘルスケア	135	237	308	642		
マテリアルズ	47	74	147	193		
ビジネスイノベーション	48	31	107	89		
イメージング	13	10	55	37		
コーポレート	2	4	7	10		
設備投資 (有形固定資産)	245	356	624	971	1,009	1,700
ヘルスケア	25	19	69	74		
マテリアルズ	10	15	31	43		
ビジネスイノベーション	39	70	116	195		
イメージング	15	8	45	37		
コーポレート	4	1	11	18		
設備投資 (ソフト、レンタル資産他)	93	113	272	367	444	600
ヘルスケア	99	110	295	328		
マテリアルズ	72	79	217	231		
ビジネスイノベーション	91	96	265	289		
イメージング	39	35	112	107		
コーポレート	7	7	20	22		
減価償却費	308	327	909	977	1,234	1,350

研究開発費 | 販売費及び一般管理費

(億円)



(単位：億円)

年度	3Q		9ヶ月		通期	
	2021年 3月期	2022年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期 (予想)
ヘルスケア	99	107	300	334		
マテリアルズ	99	103	284	308		
ビジネスイノベーション	93	79	282	252		
イメージング	21	20	67	61		
コーポレート	51	52	174	164		
研究開発費	363	361	1,107	1,119	1,522	1,600
<売上高比>	6.3%	5.5%	7.0%	6.0%	6.9%	6.4%
販売費及び一般管理費	1,534	1,634	4,197	4,861	5,520	
<売上高比>	26.6%	24.9%	26.7%	26.2%	25.3%	

為替 | 原材料価格 | 人員

為替

(単位：円)

	2021年3月期						2022年3月期				
	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	通期(予想)
米ドル	108	106	105	106	106	106	109	111	114	111	112
ユーロ	119	124	125	123	128	124	132	130	130	131	130

原材料価格 (平均)

(単位：千円/kg)

	2021年3月期						2022年3月期				
	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	通期(予想)
銀	55	78	83	70	91	74	93	86	86	89	89

人員

(単位：人)

	2020.9末	2020.12末	2021.3末	2021.6末	2021.9末	2021.12末
連結	72,176	71,474	73,275	75,879	75,007	74,842

パイプライン (2022年2月9日時点)

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階
T-705	抗新型コロナウイルス (COVID-19) 薬	経口	日本	承認申請中
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 治療薬		米国	Ph II
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	日本	Ph III
			米国	Ph II
	欧州		Ph II	
	脳卒中後のリハビリテーション効果促進薬		日本	Ph II
T-4288	新規フルオロケトライド系抗菌薬	経口	日本	承認申請中
FF-10501	骨髄異形成症候群治療薬	経口	日本	Ph I
FF-10502	進行・再発固形がん治療薬	注射	米国	Ph II
FF-21101	進行・再発固形がん治療薬 (Armed抗体)	注射	米国	Ph I/ II a
			日本	Ph I
F-1311	前立腺がん診断薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph II
FF-10101	急性骨髄性白血病治療薬	経口	米国	Ph I
F-1515	神経内分泌腫瘍治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	承認取得
FF-10832	進行性固形がん治療薬 (ゲムシタピンリボソーム)	注射	米国	Ph I
FF-10850	進行性固形がん治療薬 (トボテカンリボソーム)	注射	米国	Ph I
F-1614	難治性褐色細胞腫治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	承認取得

参考情報

FUJIFILM

富士フイルムホールディングス 株主・投資家情報

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors.html>

富士フイルムホールディングス 統合報告書2021

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/integrated-report.html>

IR資料室

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials.html>

富士フイルムってどんな会社？

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/individual.html>

グローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」

<https://www.fujifilm.com/jp/ja/about/brand/story/neverstop>

新型コロナウイルス感染症への取り組み

<https://brand.fujifilm.com/covid19/jp/>

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

コーポレートコミュニケーション部

<https://holdings.fujifilm.com/ja>
